

すくすく育で

乳幼児健診

平成 26 年 1 月 17 日 (千寿苑)

4ヶ月健診



7ヶ月健診



1歳児健診



ぼく、わたし、むし歯なかったヨ!

4歳児歯科検診



そよう病院だより



～そよう病院基本理念～

「へき地医療拠点病院として、患者様に信頼される良質な医療を提供し、地域住民に親しまれる病院を目指します。」

特集

知って得する
健康講座

第63集「乳がんの治療について」

研修医 植田 賢 医師 竹本 隆博

乳がんの治療は日々進歩を遂げているがん治療のひとつであります。乳がんの治療の中心は手術療法、薬物療法および放射線療法です。放射線療法は周術期には再発予防として、転移再発乳がんでは症状コントロール目的に行われます。



a) 手術療法

乳房に対する手術では乳房温存術と乳房切除術があり、患者の希望と整容性、腫瘍の大きさや場所、乳管内の広がりなどを考慮して術式を決定します。術後の病理検査で非浸潤がんと診断された場合、ほとんどの場合は局所療法のみで治療可能です。

b) 化学療法

浸潤のある乳がんは早期から全身に微小転移をきたし、手術のみでは根治できない場合が多いと考えられています。化学療法は、近年は患者の年齢や全身状態、腫瘍の特性によって治療する場合があります。転移性乳がんに対する薬剤は多数承認されていますが、投与順序についての標準的な方法は確立していません。

c) ホルモン療法

ホルモン受容体陽性乳がんに対しては、ホルモン療法が行われます。閉経前の患者に対しては抗エストロゲン薬（エストロゲンとは女性ホルモンの一種）が使用され、LH-RH アナログ（黄体ホルモン放出ホルモンの働きを模造した薬）を併用する場合があります。

d) 分子標的治療

HER2 は、human epidermal growth factor receptor type2 の略語で、細胞の生産にかかわるヒト上皮細胞増殖因子受容体とよく似た構造をもつ遺伝子タンパクです。HER2 陽性は乳がんの治療後の回復具合が悪いことを示す因子ですが、抗 HER2 薬であるトラツスマブの登場によって乳がんの治療の回復具合は改善してきています。トラツスマブは HER2 に対する分子標的薬です。